

令和6年度 福祉教育学習の手引き



イメージキャラクター
サンダンくん

社会福祉法人

宜野湾市社会福祉協議会

〒901-2205 宜野湾市赤道2-7-1

TEL098-892-6525 FAX098-892-0843

— もくじ —

1. はじめに …… P 1
2. 福祉教育プログラムの進め方
(年間スケジュール) …… P 2
3. 福祉教育プログラム …… P 3～6
4. 申込～報告書提出までの流れ …… P 7
5. 様式 (各種申請用紙) …… P 8～9

福祉教育プログラムの進め方（年間スケジュール）

No.		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	「福祉教育推進校及び助成金申請書」の提出	— 4月～6月 —											
2	「福祉教育プログラム申請書 兼 計画書」の提出	— 4月～6月 —											
3	事前打ち合わせ ※Zoom会議を検討して下さい。	— 4月～7月 —											
4	(※必須) 福祉教育プログラム①導入講座 「ふくしてなあに？」の実施 (※平日:2時間目～6時間目)		— 5月～7月 —										
5	福祉教育プログラム(②～⑦)の実施 (※平日:2時間目～6時間目)						— 9月～12月 —						
6	「福祉教育助成金報告書」の提出						— 9月～翌2月までに — ※全プログラム終了後2カ月以内						

※注意事項

①申請書、報告書の提出はメールにて送付をお願い致します。

②No.3について、希望プログラムに関する事前打ち合わせは、Zoomにて実施できるよう検討をお願いします。

③No.4について、「ふくしてなあに？」は、必須講座です。1学期中（5月～7月）に終わるように申込をお願いします。

④No.5について、プログラム②～⑦は、2学期中（9月～12月）に終わるように申込をお願いします。

<福祉教育プログラム>

	講座	内容・目的		所要時間	講師
※ 必須	①福祉学習の導入 「ふくしてなあに？」	講話	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉を知り、身近に感じる。 ●宜野湾市の福祉の取り組みを知る。 	45分 (2クラス合同) ※相談可	社協職員
(1 A 講座 まで)	②認知症ってなあに？	講話 (参加型)	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症を知り、接し方を学ぶ。 ●高齢者への思いやりやいたわりの心を育む。 	45分 (2クラス合同)	社協職員 又は 外部講師
	③車いす体験 (10・11・12月限定)	体験	<ul style="list-style-type: none"> ●車いすの使い方や介助方法を学び、介助する側とされる側、両方の気持ちを体験する。 ●校内や地域にあるバリアに気づき、自分にできることを考える。 	45分 (各クラス) ※相談可	外部講師
	④車いすユーザーの講話	講話 (参加型)	<ul style="list-style-type: none"> ●当事者とのコミュニケーションや講話を通して、さまざまなコミュニケーション手段があることを知る。 	45分 (全クラス合同)	外部講師
(1 B 講座 まで)	⑤手話ってなあに？ (月1回限定)	体験	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの「違い」を認め、誰もが「同じ」ように尊重される存在であることを学ぶ。 	45分 (2クラス合同)	外部講師
	⑥視覚障がい者の講話と ミニアイマスク体験 (月2回限定)	講話 体験	<ul style="list-style-type: none"> ●障がいのある人も地域社会で安心して暮らしていけるように必要なサポートを考えるきっかけとする。 	※100名を超える場合は 要相談	社協職員 外部講師
	⑦障がい者スポーツってなあに？ (中・高校生対象)	講話	<ul style="list-style-type: none"> ●私たちの中にある先入観や心のバリアに気づき、一人ひとりの違いを認め、誰もが活躍できることを知る。 	50分 (全クラス合同)	外部講師 (選手)

※A・Bグループから1講座ずつ選択して下さい。但し、Bグループを選択せず、Aグループの講座を2つ選択する事は可能ですが、その反対は選択出来ませんので、ご了承下さい。

プログラム①

福祉学習の導入「ふくしってなあに？」

<内容>…講話（ユニバーサルデザインの展示、貸出有り）

社協職員が講師となり、これから学習する「ふくし」についてオリエンテーションを行います。また、宜野湾市社会福祉協議会の活動を通して、地域に住む一人ひとりの考え方や行動が「やさしいまちづくり」につながることを知り、誰でも福祉活動に参加することができることを学習します。

<学校で準備してほしいもの>

- ・パソコン/プロジェクター/スクリーン(電子黒板可) ・長テーブル(1台)



プログラム②

認知症ってなあに？

<内容>…講話（参加型）

日常生活において起こりうる認知症高齢者との関りについて、望ましい対応を学習します。楽しく学び、早い段階から「認知症とともに生きる社会」「認知症になっても安心して暮らせる社会」について考え、相手を思いやる豊かな心を育みます。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(2本) ・パソコン/プロジェクター/スクリーン（電子黒板でも可）

※要確認



プログラム③

車いす体験学習（10・11・12月限定）

<内容>・・・体験

宜野湾市内にある介護事業所の協力を得て、車いすの役割や使い方を学び、介助する側とされる側、それぞれの立場から気づきが得られるよう、両方の体験を行います。また、体験を通して校内や地域にあるバリア（障害）に気づき、誰もが安心して暮らせる生活環境について考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・ カラーコーン(10本程度) ・ コーンバー(4本) ・ マット(4~6枚)



※夏場の暑い時期を避けるため、9月を除外しております。ご理解の程よろしく申し上げます。

プログラム④

車いすユーザーの講話

<内容>・・・講話（参加型）

重度心身障がいをもつ当事者の講話やふれあいを通して「違い」を認め、誰もが「同じ」ように尊重される存在であることを学習します。また、障がいがあっても「できること」、障がいがあるから「できないこと」を知り、誰もが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることを考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・ ピンマイク(2個) ・ マイク(1本) ・ 長テーブル(1台)
- ・ パソコン/プロジェクター/スクリーン(電子黒板でも可)



プログラム⑤ 手話ってなあに？（月1回限定）

<内容>・・・体験

聴覚障がいをもつ当事者とボランティア(数名)の協力を得て、手話体験を行います。

手話は「見える言葉」であり、「自分の気持ちを伝えたい」「相手の気持ちを知りたい」と、お互いを思うことが最も大切であることを学習します。

また、当事者の立場から「こんな社会になったらいいな」という声を聞くことで、自分にできることや社会の仕組みについて考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(1本) ・ホワイトボード2台 ・マジック極太黒(ホワイトボード用) 3本
- ・長テーブル(1台) ・イス(5脚程度) ・マグネット(8個) ・ガムテープ(生徒の名札用)
- ・講師・ボランティア含めた駐車場(5~10台程) ※要相談



プログラム⑥ 視覚障がい者の講話とミニアイマスク体験（月2回限定）

<内容>・・・講話とミニ体験

ミニアイマスク体験では「できること探し」を目的とします。「何もできないのでは？」という先入観を「できることがたくさんある」という気づきに変えるきっかけとします。

また、目が不自由な方への手助けの仕方を学習し、自分にできることを考えます。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(1本) ・ピンマイク(1個) ・生徒各自の教科書(3種類)
- ・長テーブル(1台)



プログラム⑦ 障がい者スポーツってなあに？（中・高校生対象、月1回）

<内容>・・・講話

障がいの有無に関わらず、全ての人々が自分らしく活躍できる共生社会をつくっていくことの大切さを学びます。また、スポーツという親しみやすい題材を通して、障がいがあってもルールや道具を工夫することで実現できることを知り、社会全体でできることを自ら考え、障がい者理解を促進します。

<学校で準備してほしいもの>

- ・ピンマイク(1個) ・マイク(1本) ・長テーブル(1台)
- ・バスケットボール2~3個 ※要確認

